

[課程-2]

審査の結果の要旨

氏名 津野陽子

本研究は、ストレスに直面したとき自分の保有する対処資源から適切な対処資源を動員して対処する力であるsense of coherence (以下SOC) の、対処資源と健康との関連におけるSOCの媒介効果を検証した。SOCが対処資源を動員する力としてどのように機能しているか、社会的資源・心理的資源と健康との関連性の間接効果・直接効果を都市部・農村部の2地域間比較により検討し、主たる結果は以下の通りである。

1. 都市部は農村部に比べ、学歴が高く、暮らし向きも「一般より恵まれている」と最上位に回答した割合が高くなっていた。農村部は都市部に比べ、結婚している割合が高く、居住期間は平均で10年以上長くなっており、独居の割合が低く三世同居が多いことから、地域間の居住環境の違いが示された。
2. 対処資源の保有状況は、社会的資源であるソーシャルサポートは、都市部と農村部に有意な差はなかったが、ソーシャルキャピタルは、農村部のほうが有意に高くなっていた。心理的資源では、農村部に比べ都市部のほうが有意に自尊感情が高く、楽観性の傾向が強くなっていたが、ユーモア志向性は、地域による有意な差はなかった。都市部・農村部の住民が保有する対処資源には、地域特性を反映した特徴があり、SOCとともに社会的資源と心理的資源は良好な健康に関連していることが明らかになった。
3. 健康へのSOCの媒介効果は、都市部と農村部に共通してみられることが示され、SOCが社会的資源と心理的資源の両方を動員する力として機能していることが実証された。これは、アントノフスキーの健康生成モデルにおける仮説を支持する結果を示している。都市部と農村部に共通してSOCの媒介効果があったのは、ソーシャルサポートと自尊感情であった。
4. SOCは、健康に直接的に関連をもたない社会的資源や心理的資源に対しても、SOCが媒介効果を持ち、間接的に良好な健康に関連していることが示唆された。間接効果は、直接的関連がない社会的資源・心理的資源の両方で示されたことから、SOCは対処資源を良好な健康につなげる重要な役割を担っているといえる。
5. 実践的には、地域住民の健康を促進するため、地域で保有している健康に関連する対処資源の強化や地域で不足している対処資源を補うこの重要性が示唆された。

以上、本論文は都市部・農村部に共通して、SOCは対処資源を良好な健康に媒介する機能を果たしていることを明らかにした。健康に直接的関連をもたない対処資源に対してもSOCが媒介効果を持ち、間接的に良好な健康に関連していることが示唆されたことは実証研究として新しく、SOCを高めるための介入方策の検討などさらなる研究に貢献をなすと考えられ、学位の授与に値するものと考えられる。